令和4年度　第2回 「知事と語る　やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：社会とのつながりを目指して

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、ひきこもり支援団体代表者などの皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和4年11月1日（火） 午後3時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】　8名

（主な意見等）

〇対策を検討するためには、正確な実態把握が必要。一定の不登校がひきこもりにつながるため、学校の担任だけにとどまらない働きかけにより、家族まで含め変えていく意識が必要。

〇行政の方と民間の連携が重要であり、年齢が上がれば上がるほど対応が難しくなるため、不登校の段階など年齢が低い段階での対応が必要である。

〇社会とつながれない人がひきこもりであり、能力のある人も多い。多様な価値観を持って接することが大切で、親としては子が社会で生きていくのをしっかり見届ける姿勢が必要。

〇共通点は孤独・孤立を感じている点で、何回か接すると家庭環境も多く影響すると感じる。また、ひきこもりの背景にある発達障害や知的障害についても理解される必要がある。

〇発達障害や年齢など本人の特性・状態などで支援を分けていく必要がある。家族以外の第3者の介入は有効でオンラインによる学びや友人関係の提供も有効な支援の考え方。

〇ひきこもりが長引くと社会性が失われ、お金や健康リスクの問題も課題となってくる。ただ話を聞くということも大事で、画一的な対応でなく、当事者にあった段階的な支援が必要。

〇高齢の親など家族全体の将来の不安につながるという声を聞いている。家族の間を取り持ったりすることも多くあるので家族のケアも今後大事なことと考える。

〇各市と連携して不登校支援などに取り組んでいるが、市町村の対応に温度差がすごく大きい。県が動き出すことで現場の市町村が動くことに期待感をもっている。

（知事（県）の主な発言）

〇ひきこもりは多様な背景・原因・立場であり、リアルであったりオンラインであったり時代にあった社会とのつながりに役立つ見方がありうると感じた。

〇全体像の把握の努力は改めて考えなければならない。

〇不登校時点での取り組みは大変重要なのでまずしっかりやる必要がある。

〇訪問支援は家族のコミュニケーションを復活させるサポートの第1歩として重要であると思う。

〇どのような向き合い方があるのかをお知恵を頂きながら、一緒に考える作業にお力添えを頂きたい。

〇ひきこもりについては目の前の対処療法自体も疎かにせず、長い時間をかけながら価値観の多様性を社会で実現できるよう努めていきたい。